

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター



発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9F

TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809

h p <http://www.netpro.ne.jp/any/> e-mail any@netpro.ne.jp

HIV・エイズを通して学ぶ性の健康～知ることから はじめよう～

いよいよ、**第 26 期ボランティア学校**がはじまります

5 月 26 日に行われた第 26 回総会は、多数の会員の出席を得て議案書の通り可決し、今年度の活動が始まっています。そして、7 月 7 日から第 26 期ボランティア学校が開講します。7 月～9 月にかけての長期間にわたり、10 講座を計画しています。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

プログラムの案内や申し込みについては、ホームページをご覧ください。

2017 年度 電話相談(電話相談部)の活動報告・・・第 26 回総会議案書より

電話相談(電話相談部)では、HIV、STI、および性にかかわる多様な悩み、不安をかかえる方に対して、相談の窓口となり、不安の解消、とるべき行動などを共に考えています。

また、HIV、AIDS などの情報を求める方に対して、最新の正確な情報を提供しています。それらを通して、HIV の感染者の拡大を抑制し、感染に対する非科学的な恐怖感を軽減し、感染者の人権が守られる環境を作っていきたいと願っています。

以下に 2017 年度の実績を報告します

【実施内容】：毎週水曜日の 18：00～21：00、土曜日の 15：00～18：00 に開設。

☆水曜が休日の場合や、年末・年始など横浜 AIDS 活動センターが休館の場合は休止とした。

☆年間 99 回実施し、相談員 13 名、延べ 198 名が担当した。

① 相談件数は、773 件であった。2014 年から上昇傾向が続いているが、去年は前年比マイナス 21 件であった。

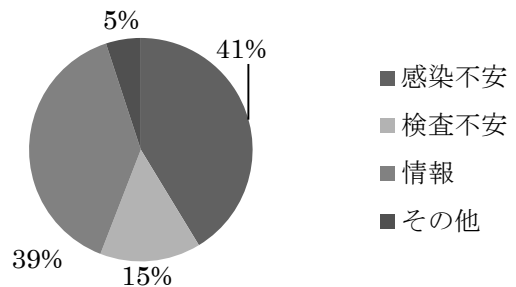
② 相談者の性別では、男性 85%、女性 15%であった。

- ③ 相談者の年齢では、20代（37%）30代（29%）40代（17%）10代（8%）が上位を占め50代、60代以上が続いている。
- ④ 相談者の性的指向は、異性愛者（86%）男性同性愛者（12%）両性愛者（2%）女性同性愛者（0%）。
- ⑤ 相談主訴は、感染不安（41%）情報が欲しい（39%）検査不安（15%）が上位を占める。

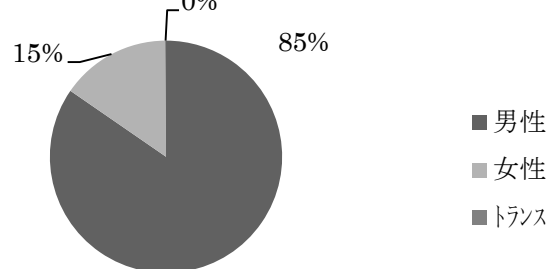
相談件数と内容

月		計
開催回数		99
相談件数		773
相談主訴	感染不安	368
	検査不安	130
	情報	348
	その他	45
性別	男性	643
	女性	116
	トランス	1
相談者の年代	10代	58
	20代	270
	30代	211
	40代	123
	50代	33
	60以上	34
陽性者		9
性的指向	同性男	94
	同性女	2
	両性	14

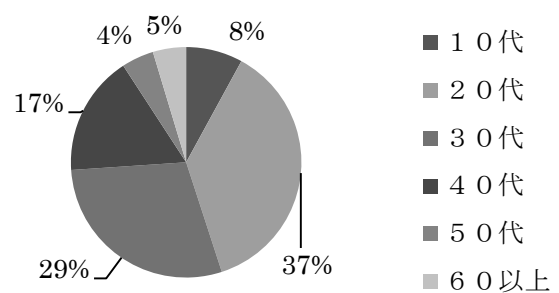
相談主訴



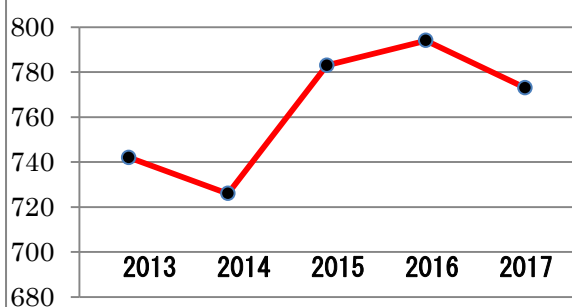
相談者性別



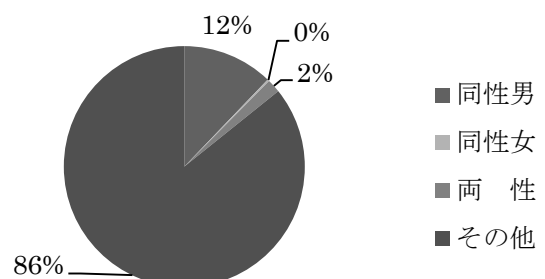
相談者年齢



過去5年 年間相談数



相談者性指向



【書籍紹介】

教科書にみる 世界の性教育

◎編著： 橋本紀子・池谷壽夫・田代美江子

◎発行所： かもがわ出版

◎価格： 2000 円＋税



本書の扉ページに、「これは性教育」との見出しで各国の教科書の一部が写真で紹介されている。カラー刷りで見ていて楽しい。

一部を紹介すると、『◎同調圧力をテーマにしたワーク ◎4つの教室のシーンでロールプレイ ◎恋には別れがあり同性カップルも ◎チャット友達から会おうと言われたらどうする? (韓国) ◎コミュニケーションスタイルは受動的、攻撃的、それともアサーティブ?』のように家族・友人・恋人との関係で自分の責任を考えたり、ロールプレイで対処のしかたを考えたり、コミュニケーションのスキルを伸ばす内容がある。

また、『◎これまで語られてこなかった障害のある人や移民の人々の性的人権にふれる ◎同性婚が認められている国もあると紹介 (中国) ◎ふざけただけとされる行為を同世代性暴力と定義 (韓国) ◎広告と性的な表現を考える』など性の多様性や障害のある人の性、移民の人々と性など多面的な内容を扱っている。

そして、『◎10代の避妊実施率や避妊方法の調査結果などの紹介 ◎ (コンドームの装着方法をイラストで示し) コンドームは薬局やコンビニ、自動販売機で買える (韓国)、◎コンドームは消費期限と安全品質マークを確認と注意を喚起し、緊急避妊薬の紹介』など避妊法や性感染症予防については、どの国も教科書に多くのページを割いて詳述しているとある。日本と同じ東アジアの国である韓国・中

国の教科書であるが、日本では扱っていない内容についても記述している。

目次の中に、中国・韓国・日本の小学校保健の教科書の背表紙を写真で示しているが、日本の教科書は厚みが薄い。そのことは内容が少ないことを示している。

各国の教科書の位置づけやつくられ方等、興味深い。ヨーロッパ・アメリカ諸国とアジア各国は、教科書の法的位置づけや学校での扱われ方に大きな違いがある。ヨーロッパ・アメリカ諸国では、ロシアを除き、教科書は民間会社から発行され、多くの国で検定制度はないという。アジア・太平洋諸国は、オーストラリアと中国を除いて、国が教科書を発行している。民間からの発行を認めている場合でも、多くは検定や認定制度を伴う。また、国語や社会科 (国史、公民等)、道徳は国定で、それ以外の教科は民間というように分けている国々もある。

日本の教科書は、国定ではない。しかし、「検閲」ともいえる厳しい検定制度があり、2015年4月からは、従来は教科とはされていなかった道徳も「特別の教科」に位置付けられ、実質的には国定という類型に近づいている。

取り上げている国は、オランダ、フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、中国、韓国、日本。世界のこともよくわかりますが、日本のことが客観的によくわかる1冊です。

(中野久恵)

季刊セクシュアリティ NO. 85

4月増刊 高齢期の性と生を拓く

◎企画編集：一般社団法人“人間と性”教育研究協議会

◎企画担当：村瀬幸浩

◎発行所：エイデル研究所

◎価格：1800 円＋税



高齢化が叫ばれるようになって久しい。日本の高齢化率は、27.7%。65歳以上の高齢者が人口の四分の一を優に超えています。

WHOの定義では、高齢化率が7%を超えた社会は、「高齢化社会」、14%を超えた社会は「高齢社会」、21%を超えた社会は「超高齢社会」とされている。高齢化のスピードをあらわす指標では、7%から14%に増加するのにかかった年数を使うそうだが、日本のそれは24年で、世界最短という。1994年に介護保険制度が導入されたドイツでは40年、福祉先進国であるスウェーデンでは85年と高齢化に対応する時間があつた。日本の高齢化のスピードがいかに速いかが見て取れる。

高齢者の“年の差婚”や“中高齢期”の結婚も特別なことではなくなっている状況もある。そのことから高齢者の性的欲求に対して理解が広まってきたとも言えるし、その反面「生殖」や「結婚」に結びつくことが条件とされている一面もあるのではないか。

そのような中、本書では高齢期、それは生殖年齢を超えた人々の性を恥ずべきもの、卑しいものとする旧来の価値観が根強い中で“性と人権”の課題から高齢期に向かう諸課題について論じている。

内容はすべて紹介できないが「高齢者の性と生～神話と現実～」長倉真寿美さん、「老いと介護と性」について3者による鼎談など興味深く読んだ。

また、【介護の現実直面して】の論考では、『『老年期』の翻訳から35年、老いと性そして介護』と題して池上千寿子さん（特定非営利活動法人ふれいす東京理事。エイズのNGO活動で私たちにとっては身近な存在ですね！）の文章がある。

35年前、1983年に翻訳した『老年期 高齢期の心理学』（鎌倉書房）の内容にふれるとともに、自らが65歳で20歳年上の母を在宅介護した「老々介護」の中で体験した介護のこと、母が入所した有料老人ホームで見聞きしたことをふまえて老年期の性とは？と、問いかけている。老人の性への抑圧だけでなく、性をタブーにしないで拓いてゆく、「性のIQ」を高めあうことがたいせつとしています。

他には、「妻の介護を通してセクシュアリティを考える」青木幸夫さん、「母と夫のダブル介護に直面して学んだこと」原田瑠美子さんの文章は体験によるもので切実に介護の場での老いと性について考えさせられる。（中野久恵）

お知らせ

☆ 電話相談件数 4月 63件 5月 41件

